

最近親しい友人 O 氏、M 氏と交わした意見交換です。

時系列順に並んでいます。本人の了解をとっていないので両氏の意見は掲載していません。

2017-08-03

O 氏：危機意識、諍いを回避した現実的な解法を

2017-08-03

河村：O 氏の意見に反論

常識的（良識的？）には、貴君の意見に賛同する人が多いでしょう。（事なかれ主義・・・失礼）

小生は、若干違う角度から見えています。

地球の歴史、人類の歴史、科学技術と人類、人類の幸福とは、という観点から見ると反対です。

まず「平和」＝「幸福」という式が成り立たない、幻想にすぎない、という現実です。

アメリカがどうの、中国がどうの、という問題ではないと思います。

ここで、妥協を重ねて、北を核保有国として認めて、国際社会の一員として迎えることになると、まさに人類の危機です。次々と弱小国がルールを無視し、核を持ち始めます。

もしも北のあの態度が変わらなければ、小生は、戦争が起こらざるを得ないとみまします。そのために数百万人の犠牲者と、その何倍もの難民が生まれ、日本を含めて大混乱に巻き込まれるでしょうが、人類全体から見ると、たかだか 0 点何%の話です。難民問題も 50～100 年経てば、吸収されて行くでしょう。放置しておく、上記犠牲者の数は数倍に膨らんでいくことになる。

長い歴史から、地球から、人類から「戦争は絶対に無くならない」ことを認めざるを得ません。問題はその発生リスクを如何に低減するか、起きた時の被害をいかに緩和するか、ということに人類の叡智を結集すべきです。

最近でこそ、さすがあまり聞かなくなってきましたが、野党がエモーショナルに「戦争反対！」などと声高に叫んでいるのは、意味のない話です。極めて当たり前の話で「太陽は東から昇る」と同じ無意味な言葉です。

現在起こりつつある、社会問題、政治問題への低俗なマスコミの報道に、いかにも国民がバカにされているようで、腹立たしく感じています。

2017-08-03 河村幸二

2017-08-04

O 氏：今度の「O さんの意見に反対」という意味が良く分かりません。

2017-08-04

河村：反対なのは、「新しい核バランスが生まれることを認めること」の一点です。現在世界中が、寛容・協調の時代から、エゴむき出しの時代に入っています。

世界のルールがこれほど、重要性が高まっている時はない。

人類滅亡に至るのを食い止めたい。そのために人類の 0.1%程度の犠牲者で済む局部的な戦争であ

れば、まだまだ、と考えます。

次に重要なのが、現在の核保有国を

核廃棄に向かわせる戦略です。絶対に使わせない、もし使ったら、国連からの除名、徹底的な経済封鎖、人の出入りの封鎖・・・

実現は極めて困難ですが、たとえ100年かけても、その方向に向かうべきです。

この間、O氏、M氏からも意見呈示あり。

2017-08-09

河村：

Mさんも、Oさんと同じ考えと見受けます。短期的（5～10年）の戦争の不幸を避けるためには、常識的には正しい見方でしょう。

しかし、長期視点からみると、その妥協が人類の将来に大きな禍根を残すと考えます。

「核武装すれば、世界に向けての交渉力が増す」という発想が問題なのです。ICBMで地球の裏側まで届くようになる、ことは通常爆弾である限り非難しません。ロフティッド軌道の垂直近く落下してくる飛来物を地上から撃ち落とすのは極めて困難ですが、現在米国で開発されている、数十キロm上空のジャンボ機並みの機体から数百KWのレーザー銃で、数キロ先の飛行物を瞬時に破壊するもので、開発に期待しています。

2017-08-10

河村：

ご指摘の通り、小生は短期的視点による現実解ではなくて、あるべきだ論を繰り返しています。たとえどのような対策になろうと、この理想に向けての「核廃絶という」戦いを止めるべきではない、と信じます。

北を説得するというより、世界の先進国を相手の戦いです。「核兵器を持つことが、人類にとっていかに愚かなことか、国の力を示すのではなくて、国の品格を下げ、世界から蔑まされること」の世界通念を築き上げることです。日本はそれをもっと強く世界に発信すべきです。

もし北が暴走して、ひとたび核兵器を発射すれば、世界中から寄ってたかって、"通常兵器を使って"軍事施設を叩き潰す。そのための犠牲は、その後の人類が被る不幸に比べれば、僅かです。

2017-08-13

河村：

数あるトーク番組で、小生のもっとも信頼・評価する関口 宏の「サンデーモーニング」の今朝(8/13)のトップテーマに「北問題」が取り上げられました。残念ながら、各識者とも短期的視野による「アメリカがどうの、中国がどうの」といった分析と当面の対策・対応ばかりで、小生の主張する「核が人類の危機：その廃絶」を訴える人は、誰もいませんでした。

コメンテータの意見を総合すると、Mさん、Oさんの考えとかなり近いですね。たしかにこれが日本の平均的な「常識・良識」なのでしょう。

小生は、こうした中途半端な妥協に敢えて反対します。

「核兵器を保有することが、世界に対する交渉を有利にする」という概念が、先進国含めて全世界に蔓延しています。これが、現時点で「最も恐ろしい事」なのです。

この概念戦争は、北を相手の戦いではなくて、アメリカをはじめとする先進国との戦いでしょう。先般国連で採択された。核保有国を除く 100 数十か国で「核拡散防止」を、もう一歩進めて、この概念の国際世論形成に、日本は注力すべきです。

その時に、核を実行した前科のあるアメリカはあてにできません。大国として、中国に強く働きかけるべきです。中国を、うまく持ち上げて（日本はその下で影の力を発揮して）世界世論を誘導するのが得策と考えます。この意見には、軍事力と経済力を笠に着て、傍若無人に国家としての品格を疑うふるまいに、苦々しく感じている人（国）には、とんでもない、と反発を買いそうだが、力で押さえつけようとしても無駄であろう。良き隣国として品格を高める支援をしていくことが、この地域の安定と、ひいては日本の存在価値を高めることができる。

補足 1：今回の北問題、絶好のチャンス

核軍縮は数十年前から大国を中心に努力が重ねられ、その成果も一部見え始めていた時があった。その努力が一挙に吹き飛ばされようとしている。北問題は一部の当事国以外の世界全体から見ると、それほど関心を集めていない。そうでなくても、自国の中にさまざまな問題が山積している。それでも世界規模の話題としては知れ渡っている。「核軍縮」では意味がない、「核廃絶」を行わないと解決にならない。この機会を活かすべきである。（皮肉なことだが、その意味で北に感謝すべきかも??）

補足 2：日本の安全保障の 5 本柱

最近の日経新聞（7/28 朝刊）に、大西 仁（東北大学）氏が指摘した①自衛隊 ②日米安保体制 ③国際貢献（ODA など）④東アジア諸国との相互信頼関係 ⑤平和憲法 は大賛成である。しかしこれは戦略であって、「日本がどういう国になりたいのか」という理念ではない。前にも書いたが「防災日本」を、憲法改正の中核に据えるべきである。

[http://www.sparj.com/kojimemo/KojiMemo\(31\)BousaiJapan.pdf](http://www.sparj.com/kojimemo/KojiMemo(31)BousaiJapan.pdf)

補足 3：改元問題

8 年前に書いた KojiMemo(20) “日本と地球を救う仕組み”を考える 2009-01-01

http://www.sparj.com/kojimemo/KojiMemo20_SaveJapan&Earth.pdf

発表したときには、とくに改元について猛反対を受けたが、近く実現しますね。